

## 事例紹介大学等のプログラム概要【各地域での実施】

### 〔中国・四国地区〕

#### 1. 島根大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	学生の自主的活動の評価と教育効果の向上
<p>（プログラムの概要）</p> <p>大学における学生生活においては、正課以外のサークル活動、ボランティア活動、各種ガイダンス・セミナー等（以下「課外活動等」という。）の諸活動を行なうことが自立やコミュニケーション能力等の養成に役立ち、人間力の形成を涵養する。しかしながら、正課以外の課外活動等の諸活動に対しては評価が不十分な現状にある。</p> <p>本取組では、正課以外の諸活動への参加者に対してインセンティブ・ポイントの付与、ポイント交換の仕組みを構築し、大学が積極的に課外活動等を評価するとともに参加を誘導することにより、学習意欲の向上を図ることを目的とする。</p> <p>学生の諸活動の履歴は、履修状況、就職活動、面談記録等とともに一元的に参照できる既設の「学生電子カルテシステム」に登録する。それを参照し、指導教員等がきめ細かい指導を行なうとともに正課と正課外教育の相乗効果を検証することによって教育改善に資する。</p>	

#### 2. 佛教大学（平成19年度選定）

プログラムの名称	「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画 －適度な距離感を保った学生の共同体作りと就学支援セーフティネットの構築
<p>（プログラムの概要）</p> <p>本取組は、入学者全員の卒業を目指す「離脱者ゼロ」プログラムである。そのために、同級生との「ヨコ」関係、上・下級生との「タテ」関係、さらに教職員との「立場」関係を柔軟に組み合わせた「縁（えにし）コミュニティ」を作る。この共同体は、現実に顔を会わせて集う場やインターネットを活用したバーチャルな場を利用することができ、適度な距離感のつながりがセーフティネットとなって孤立化を防ぎ、挑戦への支えとなる。</p> <p>また、「ミッションプログラム」を開講して本学で学ぶ意義や使命を伝え、学生として、また社会の一員としての自覚、主体的な学びへの自覚を促す。またそれは、学年の進行にともなう系統的なカリキュラムと連動していく。</p> <p>加えて、卒業生も巻き込んだ学びの共同体は、学生、卒業生の両者にとって、キャリア形成の場となる。もって本取組より、自らの力で大学や社会との「つながり」や「つながる力」が養成されるのである。</p>	

#### 3. 松江工業高等専門学校（平成19年度選定）

プログラムの名称	OJTによる学生の自主性を育む支援 －教職員のカウンセリングマインドと学生のリーダーシップ能力の向上
<p>（プログラムの概要）</p> <p>「価値観の多様化」がいわれ、多様な選択肢からの自己責任による選択が求められている。だが将来の自分のための選択には、具体的な将来像の獲得と自己変革の積極的な姿勢が必要となる。</p> <p>申請校では、自己を向上させようとする自主性を育むことを教育方針としてきた。まず1～3年を「自主性を育てる段階」とし、多様な学生に対応する手厚い指導を行っている。そして4・5年を「自主性を伸ばす段階」とし、自己選択の姿勢を求めている。またキャリア教育により、将来像の明確化を促している。</p> <p>しかし、学生の質的な変化により的確に対応するため、OJTによる2つの新しい取組を始めたい。第1に、多くが科学技術を専門とする本校教職員のカウンセリングマインドを専門家の助けを借りて向上させる。第2に、学生のリーダーシップ能力を向上させるため地域の小中学生を対象にスポーツ講習、技術講習を行う。</p> <p>この学内外の取組により、学生の自主性を育む体制を確立する。</p>	